様式第６号の１１

その１

学番	１０	県立新潟向陽高等学校

令和３年度　　学校自己評価表（評価）

学　校　運　営　計　画		
学 校 運 営 方 針	○いつも明るく希望をもって、積極的に自己の運命をきり開いていく人間を育成する。 ・生徒の充実感と保護者の満足が得られる学校 ・積極的に情報を発信し、地域貢献を進める学校 ・生徒に寄り添ったキャリア教育を推進する学校	
昨年度の成果と課題	**令和３年度の重点目標**	**具体的目標**
昨年度の成果と実績は以下のとおりである （ ）は前年度 ・高校生活満足度調査 １年 80.5%(78.4%) ２年 72.7%(64.6%) ・入学者一般選抜倍率 1.18 倍(1.40 倍) ・中途退学者（率） ０名【 0%】 （ ５名【 0.7%】） ・転学者数（率） 14 名【2.1 %】 （18 名【2.5%】） ・出席率 １年 98.2%(98.0%) ２年 98.0%(97.3%) ３年 98.0%(97.9%) 全体 98.1%(97.9%) ・進路実現 就職：３月末内定率 100%(100%) 進学：国公立大合格 １名（０名） 公立短大 ２名（０名）	・学力の向上と進路指導の充実	・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践（科目ごとに到達目標を設定し、実施する。また、ＩＣＴを授業に有効に活用する。） ・成績不振の生徒への補習、考査前の個別指導の実施 ・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促進するため、ＩＣＴの活用方法について研修を深め、授業で実践する。 ・生徒一人一人の得意分野や関心のある分野の力を伸ばし進路実現につなげるため、キャリア教育と生徒の科目選択に有機的なつながりをもたせるよう指導を工夫する。 ・生徒、保護者に進路情報を積極的に提供する。 ・大学進学率を向上させるとともに、国公立大学短大進学者を育成する。
	・生徒指導・学級経営	・基本的生活習慣の確立（繰り返し、共同での指導） ・教育相談等の充実、生徒情報の共有化、Quの活用等による学級集団の把握 ・自信と自覚に基づく規範意識の醸成 ・スマートフォン・携帯電話は、登校したらロッカーに入れる指導を徹底する。
	・教育相談機能の向上	・カウンセリングマインドにたった生徒指導、HR運営 ・校内コーディネーターへの相談、臨床心理士の活用（教育相談、特別支援教育研修の実施） ・いじめ対策委員会・いじめ対策推進教員を中心とした、いじめを見逃さず、いじめから生徒を守る学校づくり。
	・特別活動の充実	・クラブ活動への積極的な参加を促す。 ・運動部活動地域連携促進事業を活用して活性化を促す。 ・部活動紹介、壮行式などを企画して、クラブを活性化させる。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
基本的生活習慣を確立させる	基本的生活習慣を定着させる(生指)	頭髪・服装指導を中心に身だしなみについて定期的に一斉指導を行う。年間を通して継続的な指導を行う。	B	B	B
		始業時および各時限における時間遵守の徹底をはかり、時間を守る態度や実践力を育む。	B		
		規範意識を高め、集団生活に適応する能力を養う。	B		
		校外生活における正しい生活習慣を身に付けさせ、非行や犯罪に関与しない道徳的態度を養う。	A		
		登校したら、スマートフォン等をロッカーにしまわせることを定着させる。ＳＮＳの適切な使用方法について、指導する。	A		
	生徒との信頼関係を構築する(生指)	職員自らが積極的に挨拶，声かけを実践する。	B	A	
		生徒相互がよりよい人間関係を構築できるよう、職員は常に生徒理解に努める。	A		
	基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を育む(1 年)	始業時および各時限における時間遵守の徹底をはかり、時間を守ることの重要性を指導する。	A	A	
		頭髪服装検査を定期的に行い、高校生としての身だしなみについて考えさせる。年間を通して継続的な指導を行う。	A		
		生徒同士が互いに尊重し、敬愛し合うことにより、良好な人間関係を構築できるよう指導する。	B		
	高校生活の充実を図る(2 年)	高校生としてのあり方（服装を整える・時間を守る）を身に付け、基本的な生活習慣の確立を図る。	B	B	
学習習慣の確立と人間性の涵養を積極的に促す	学習環境を充実させ、学習習慣を定着させる(教務)	授業時数を確保するとともに、放課後や長期休業を活用して補習ができる環境づくりをする。また、科目ごとに具体的学習到達目標を設定し、担当者で目標を共有できるように環境を整える。	A	B	B
		授業変更黒板の活用を促し、職員の出張が重なる時期にも授業の振り替えが円滑に進むように環境を整える。	A		
	ＩＣＴの活用（ICT 授業改善）	ＩＣＴに関する職員研修や互見授業週間を行い、ICT の効果的な活用方法を探究するとともに、授業改善に向けた取組を促進する。	C		
	協力体制を整える（生指）	生徒が抱える多様な問題に柔軟に対応するため、全職員の共通理解をはかる。	A	B	
		学校外の諸機関との連携をはかり、情報交換を密に行う。	B		
		保護者に対する情報提供を心掛け、相互協力体制を築く。	B		
	社会生活に不可欠な常識やモラルを身に付けさせる(進路、人権委)	人権教育、同和教育を通じて、人権尊重の精神を養う。	A		
		進路講演会やキャリア教育講演会によって、進路実現のために必要な取組や社会規範、その知識及び実践方法を理解させる。	A		
		卒業生を学校に招き、企業の現状などの講話をしてもらう等の交流を通して、生徒が社会へと巣立つ準備をさせる。	B		

		インターンシップを通じて職業観を育成し、将来の進路について考えさせる。	C		
	生徒が自主的に活動できる環境づくり(生徒会)	生徒会執行部を中心に、各委員会、各クラス、職員が連携し、学校全体で行事に取り組む。	A	A	
		生徒の活動を支援するためのよりよい仕組みを常に検討する。	B		
		生徒会執行部への加入をすすめ、行事の立案など中心となる生徒を育てる。	A		
		部活動の活性化のため、活動費を支援し、部活動紹介などで積極的な参加を促す。	A		
	社会人としての自覚を育てる(3年)	挨拶の励行や時間の厳守などの基本的な生活マナーの定着を図る。身なりや言動に自覚を持たせ、コミュニケーション能力の向上を図る。	B	B	
	基礎・基本の定着を図る(1年)	高校における単位履修と修得、進級の仕組みについて、随時説明し、毎日の授業に真剣に取り組むことの大切さを理解させ、自覚させるように指導する。その上で、毎日の家庭学習が定着するように、定期考査前や長期休業前に計画を立てさせ、それを実践できるよう指導する。	A	A	
		定期考査後や長期休業後の課題テストの結果を振り返らせ、不足している部分を具体的に指摘し、その後の学習に生かせるよう指導する。	A		
	いじめを見逃さず、いじめから生徒を守る学校づくり(いじめ対策)	困っている生徒が、教員やスクールカウンセラー等に、いつでも何でも話せるような校内体制と雰囲気を作る。	A		
		困っている生徒には、全職員が早急に、最善の方法で対処できるよう、研修等を通じて力量を高めるよう計画を立てる。	B		
進路目標を実現させる	具体的な進路目標を持たせ、その実現のための指導の実施や環境の充実を図る。(進路)	関係機関や学校独自による啓発のための進路説明会を実施する。	A	B	B
		進学、就職関係資料の充実と、過去の実績の開示や相談を行う。	A		
		進路指導部による進学･就職希望者の個別面談を実施する。	B		
		ハローワークとの連携を深め、インターンシップを実施する。	C		
		インターンシップを実施し、「働く」ことを体験し、進路に対して意識を高め、進路実現に役立てる。	C		
	保護者との連携を深める(進路)	保護者向けの進路説明会を実施し、保護者との連携を深める。	C		
	学力の向上と進路の決定(2年)	普段の授業や家庭学習の定着など、継続的な学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	B	B	
		模擬試験の受験やサポートアイテムの利用など、学力や実力を把握する。資格・検定試験の合格を目指す。	A		
		学校見学や各種ガイダンスに参加させ、早期の進路決定を促し、キャリア教育の充実を図る。	A		

	進路希望の実現を図る (3 年)	教育相談や三者面談などの機会を活用して、本人・家庭との連携をはかり、進路実現ためのサポートやバックアップを行う。	B		
		進路ガイダンスや各種模擬試験、進学補習や小論文指導、面接指導などを通して、実践力の向上を図る。	B		
	進路希望についての意識を高める (1 年)	進路学習を通じ、早い時期から自分の進路希望を明確なものとするように指導する。	A	B	
		インターンシップやキャリアアップセミナーを通して、将来就きたい職業について具体的に考えさせ、その実現に向けて必要なことが何かを考えるきっかけとさせる。	B		
自ら「開かれた学校」を実践し、地域に応援される学校づくりを行う	行事を充実させ「開かれた学校」を実践する (教務)	学年や他の分掌と連携を密にし、各種行事が効率よく、円滑に進むように調整をはかる。	A	B	B
		公開授業を実施し、職員間で多くの情報を共有するとともに、授業のさらなる改善に資する。	B		
	生徒や保護者等の学校関係者、及び教員自身による評価を行う (学校評価・ヴィジョン)	アンケート形式で生徒が学校・授業・自己を評価する。	B	B	
		アンケート形式で保護者が学校や自己を評価する。	B		
		教員が自らの資質向上や授業改善のため、自己申告シートや授業評価シートを作成し、管理職とともに教科指導や生徒指導、分掌や部活動での課題を見出し、新たな目標に向けて実践を積み重ねる。	B		
成　果		・学年団や生徒指導部、いじめ対策委員会、特別支援委員会などが組織的に機能し、生徒が抱える多様な問題に柔軟に対応することができた。中途退学者は４名であったが、いずれも年度末であり、生徒・保護者と丁寧に話し合いを進めることができた。 ・GIGA スクール構想の元で、教職員一同 ICT を活用して授業改善を図ろうと模索してきた。 ・挨拶や基本的な生活習慣やなどの指導が行き届き、集団生活を送る上での規範意識が定着してきている。 ・最後の学年所属の卒業生となった。学年団と進路指導部で連携して、生徒の進路について丁寧に対応してきた。 ・単位制２年目として、課題も多く見えてきた１年間であったが、地域の方々の期待に支えられながらも、様々な体制を整えることができた。	総合評価 B		